

パパ育休のススメ

職場のエピソード大賞

ベストエピソード大賞

大賞

イクボス
部門

娘が生まれて、与えられた育休時間は、なんと12,000分！

パパの名前 西田 和真さん 伊勢市
株式会社グッド・ナル

我が会社では、子どもが生まれてから1年間で12,000分の育休が取れます。しかも、1年間で育休を使い切るように!!と、社長から言われており、育休を取らざるを得ない状況!!なんともありがたいシステムでした。1日取ってもよし、毎日1時間早く帰ってもよし。私の場合は、新生児期はできるだけ休みを取り、検診にも一緒に行くことができ、娘の成長を間近で見ることができました。新生児期が過ぎてからは1時間早く帰る日を長期間続け、娘と妻と一緒に居る時間を作ることができました。

そして、なんともありがたかったのが、職場と自宅が市内だったので、昼休みには家に帰ってあげて!と言われ、60分間の昼休みは自宅で過ごし、娘の沐浴もしていました。娘と過ごす時間が増え、妻の負担も減りました。

大賞

私の育休
バナン
部門

職場の温かい言葉が復帰後のモチベーションアップに

パパの名前 奥山 翔平さん 四日市市

1年間の育休を取ることにになり、手続きの都合で時々職場に顔を出す機会がありました。最初の訪問時は「気まずいな」「嫌味を言われたらどうしよう」と不安でしたが、実際に迎えてくれたのは温かい言葉ばかりでした。「赤ちゃんかわいいね」「一番かわいい時期に一緒にいられて幸せだよ」といった言葉に、不安は一気に吹き飛び、「今この瞬間を大切にしよう」との思いがさらに強まりました。さらに、管理職の方から「復帰後も時短勤務などの制度があるから何でも相談して」と配慮してもらい、職場のサポートが復帰後のライフワークバランスにまで及ぶことに感激しました。こうした職場の優しさに気づき、復帰後の仕事への意欲も一層高まりました。育休を取得したことを心から良かったと思える経験となりました。

大賞

イクボス
部門

校長先生が育休取得への不安を断ち切ってくれた

パパの名前 中山 光悠さん 御浜町
紀宝町立相野谷小学校

妻の妊娠がわかり、すぐに「来年度、育休を取りたい」と校長先生に相談しました。教員の人数が少ないため、長期間休むことが現実的かどうか不安でしたが、校長先生は「おめでとうございます、ぜひ取りましょう」と即答し、「先生の希望を受けて、あとはこちらが動くだけですから安心してください」と力強くサポートしてくれました。その後も、自分が「職場に負担をかけないためにはどのタイミングがよいか」と悩む度に、「先生の希望が一番大事です」と迷いを断ち切ってくれる言葉をかけてくれました。結果、自分が一番赤ちゃんと一緒に過ごしたい時期に40日間の育休を取得し、家族旅行にも行くことができました。育休前に「パパの時間を楽しんでくださいね」と送り出してくれた校長先生の笑顔は忘れられません。

今後は私も、誰かの育休を支えられる存在になりたいと強く感じています。

大賞

雰囲気づくり
部門

理解のある上司や先輩のおかげで育児に集中することができました

パパの名前 栢田 光弘さん 松阪市

妻の実家が遠く、産後の妻の体をしっかり休ませてあげたいこと、そして子どもの成長を近くで見守りたいという理由から、半年間の育休を取得しました。コロナ禍で出産に立ち会えなかった悔しさもありましたが、育休中に家族と共に過ごす時間を持てたことで、妻への感謝の気持ちがより一層強まりました。

私の会社は育休取得に積極的で、長期の育休を取った従業員の座談会もZoomで行われ、そこでインタビューを受ける機会もありました。

また、上司や先輩も育休取得に理解があり、相談がしやすい環境が整っていたため、安心して長期育休に入ることができました。こうした職場のサポートのおかげで、育児に集中し、家族と充実した時間を過ごせたことに心から感謝しています。

会社から妻への手紙で 夫婦で育休を考える機会に

パパの名前 浅井 慎也さん 津市

夫より、職場で私宛の封筒を預かったと言われ、渡されました。開封せず渡すようにと伝えられていたようです。

封筒の中には妊娠祝いの言葉とともに、男性職員のための休暇・休業制度の案内が詳細に記され、取得推進の姿勢が伝えられていました。

当初は、男性の育休にはまだ理解が足りないと感じ、最低限の休暇だけでもと考えていましたが、この手紙のおかげで夫婦でしっかりと相談し、安心して育休を取得できるようになりました。夫の職場の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

「男だって育児をするんだよ。」 小学3年生の男の子の言葉

パパの名前 浅井 慎哉さん 員弁郡東員町 公立小学校

小学校教員である私は、この10月から3ヶ月間の育休を取ることにしました。職場からは理解を得られましたが、担任するクラスの子どもたちに伝える際には不安がありました。育休に入る1ヶ月前、子どもたちに事情を話すと、「男の人が育児のために休むの？」と戸惑う声も上がりました。しかし、ある男の子が「男だって育児をするんだよ」と即座に答え、私は未来のイクメンがここにいると感じ、感動しました。

育休前の最終日、子どもたちや同僚から「行ってらっしゃい」と温かいエールをもらい、「父として成長して戻ってこよう」と決意しました。育休初日、初めて作ったフレンチトーストを家族に振る舞い、良いスタートを切りました。

まずは相談。周りの 自然なサポートに感謝

パパの名前 三橋 善男さん 伊勢市

私が働いていたのは老舗の小さな企業で、結婚と息子の誕生が10年ぶりの大きな出来事になりました。ベテランの多い職場で、上司や社長も最初は驚いた様子でしたが、すぐに育児休暇の設定について話を進め、妻の出産前後に合わせて休みを設けてくれました。妻は帝王切開での出産が決まっていたため、予定も立てやすかったです。当初、私の報告による影響を心配していましたが、同僚たちは自然にサポートを整え、私が育児に専念できるよう仕事の調整をしてくれました。その配慮に感謝し、会社の組織としての温かさを強く感じました。

さらに、妻の病気により私が育児を担うために、社内初のフレックスタイム制も導入され、保育園や病児保育の送迎も担える環境が整いました。働きながら育児にしっかり参加できるこの支援に感謝しています。

DXツールなどを使いこなし 海外里帰り育休

パパの名前 大西 有さん 松阪市

私の妻は外国人で、初めて孫を祖父母に見せるため、妻と私が同時期に育休を取得し、3歳の長女と生後1ヶ月の次女を連れて妻の実家に里帰りすることにしました。私は6ヶ月の育休を2回に分けて取得し、現地で育児に専念できるよう準備を進めました。すぐに会社に出社できない状況に備え、iPadやPC、Teams、Zoomなどのオンラインツールを事前に整備し、また部下が代理で業務を進められるように役割分担を徹底しました。コロナ禍でリモート会議が普及したことも追い風となり、リモートでの業務対応がスムーズにできました。

また、他社の男性も育休を取る報告を受け、少数派ではないと感じたことが心理的支えになりました。「子どもは国の宝」という先輩からの言葉に励まされ、育児が尊いものであることを改めて実感しました。

部署内初の育休を モデルケースに

パパの名前 春名 敬太さん 津市 井村屋株式会社

第三子の誕生を機に初めて育休を取得。部署内で前例がないため、上司に申し出る際は緊張しましたが、「フォローを頼むための準備をしっかりするように」と快諾され、さらに朝礼で「この育休取得を部署のモデルケースに」と宣言してくれました。その配慮に感謝しつつ、社会が育休を理解するにはまだ課題があると実感しました。職場で「ゆっくりしてください」と声を掛けてもらいましたが、育休は妻を支えるための「休業」。また、妻が一番大変だったのは第一子出産後だったと聞き、初めての育児に育休の重要性を痛感。若手にも育休を積極的に取得させたいと決意しました。

「仕事より育児を優先する」 価値観を広める存在に

パパの名前 西井 栄貴さん 松阪市

主人は第一子の誕生前から、産まれた後も、会社での飲み会やイベントの誘いに対し「小さい子どもがいるので難しいです」としっかりと伝えてくれました。大手企業では育休取得が一般化しつつありますが、中小企業ではまだ取得しづらい雰囲気が残っています。そんな中で主人が「子どもがいるので家庭を優先したい」と明確に伝えたことで、「仕事より育児やプライベートを優先してもいい」という考えが職場に少しずつ浸透し始めました。2022年9月に第二子が誕生し、その翌月に主人の会社で育休促進の取り組みが始まりました。残念ながら、育休制度が始まる前の誕生だったため育休は取れませんでした。主人が積極的に家庭優先の姿勢を見せたことが、育休取得を促進する一助となったのではないかと考えています。

同じ境遇の社員同士で助け合い、 1ヶ月の育休取得を実現

パパの名前 三上 隼さん 桑名市

第一子の出産は2017年。夫の働く支店で男性の育休取得は前例がありませんでした。私は里帰り後もなんとかやれるかなと覚悟していたところ、なんと会社の先駆けとして夫が5日間育休をもらうことができました。

第二子の出産は2019年。その際も里帰り後自宅に帰った時の5日間育休取得。第三子の出産は、里帰りはせず産院退院後は自宅で過ごすことに。夫の育休5日間が終わってしまえば私1人で3人育児…「不安」と「なんとかなる」の行ったり来たり。夫に相談したところ、上司や同僚の協力で育児や在宅ワークを駆使して、1ヶ月家で過ごすことに！なんと似た時期に妻が出産を控えた同僚が3人もいたらしく、お互いに状況報告をし合いながら仕事を調整してくれたそうです。夫と1ヶ月も一緒に過ごせたのは私も初めてで、2人で新生児の貴重な時間を共に過ごせたことがかけがえのない経験になりました。育休取得に理解を示してくれた上司、同僚、夫に本当に感謝しています。これからもっと育休が当たり前になれる世の中になっていくことを願っています。

最寄り店舗への異動+育休取得の推奨

パパの名前 井上 大知さん 名張市 百五証券株式会社

2歳の長女に加え、双子のパパとなり、仕事と育児の両立に不安を抱えていた私。しかし、会社側が最寄り店舗への異動を手配してくれたおかげで、通勤時間が短縮され、育児に専念しやすくなりました。さらに、着任早々にもかかわらず育休取得も快く承諾してもらい、「パパ業も貴重な機会だ」との温かい言葉や「長女への対応も気を抜くな!」という励ましもいただきました。職場のサポートを通じて、家族と向き合う大切さを改めて実感しました。会社の配慮と職場の皆様の理解に心から感謝しています。この経験を通じ、仕事と育児の両立には職場のサポートが不可欠であると痛感しました。

今後も家族と過ごす時間を大切にしながら、育児と仕事を両立していきたいと思っています。

2回の育休を経験で自身も会社も成長!

パパの名前 梅本 信太郎さん 伊勢市

4年前、第一子の誕生に際し、「育休を取ろうと思います」と相談したところ、上司や同僚から「男性がそんなに長く…?」という反応も少なくありませんでした。それでも育休を取得したことで、他部署にも「育休を取った人がいる」という話が広まり、社内で育休への理解が深まることも、取得者が増え、会社のイメージアップにも繋がったと聞きました。その際、自分の行動が会社の文化に貢献できたと感じ、関わってくださる方々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回、第二子を迎えるにあたって上司から「半年くらい?一年くらい?自分で決めていいぞ」と温かく送り出され、育休が自然と受け入れられている環境に感謝しています。1回目の育休で感じた「離乳食は妻任せだったな」との反省も踏まえ、育休中に改めて育児に向き合う大切さと出産の尊さを感じています。

心強い上司のサポートで 安心して育休を取得

パパの名前 康村 耕平さん 鈴鹿市

入社5年目で、一人で責任を持つ業務が増えていた私は、育休を取ることで周囲に迷惑をかけるのではないかと不安でした。上司との面談で軽く「予定日が金曜なので土日でサポートします」と伝えたとこ、「休みを取る前提で引継ぎして、遠慮なく休んで。みんなで何とかする」と即答。さらに、上司は育休手当や会社制度の資料を揃え、私のために準備を整えてくれていたことに驚きと感動で涙がこぼれそうになりました。上司から「会社携帯は置いて行け。先方も応援してくれている」との言葉を受け、改めて職場の支えを感じました。後に、海外の関係会社からもお祝いの連絡をいただき、その心遣いに深く感謝しました。

この経験から、育休を取る人がいる際には自ら業務を引き受け、恩返しをしています。人に親切にすることの大切さを教えられた出来事でした。

給与面や生活費など 聞きづらい不安の相談役に

パパの名前 宮城 正道さん 津市

1年間の育休を取得した経験から、後輩に「いつでも育児の相談をしてほしい」と伝えていました。すると、ある後輩が子どもができたことを報告し、育休取得について給与面での不安を打ち明けてきました。私は、自分の経験をもとに、育休の申請方法や給与計算の仕組み、賞与への影響などを丁寧に説明しました。さらに、自分が育休中にかかった1ヶ月の食費や雑費なども具体的に伝え、後輩が実生活に即した見通しを持てるようサポートしました。

このサポートのおかげで、後輩は家族と相談し、自分で1ヶ月の費用を計算して、2ヶ月の育休を取得する決断に至りました。こうした経験共有が後輩の不安を軽減できたことに、私自身もやりがいを感じています。後輩の育休取得を支えることができ、育児支援の大切さを改めて実感しました。

子どもの行事参加を 後押ししてくれた上司に感謝

パパの名前 松本 樹さん 鈴鹿市 宮古島株式会社

転職して間もない頃、幼稚園の運動会が近く中で仕事が忙しく、参加を諦めかけていました。帰宅すると子どもが楽しそうに練習の成果を話してくれる一方、休める状況ではないと心の中で申し訳なく感じていました。そんな時、上司から「運動会は毎年あるが、幼稚園年少の運動会は一生に一度しかない。仕事はみんなで分担すれば大丈夫だ、運動会に行つてこい」と言われ、驚きと感謝で胸がいっぱいになりました。その一言で、子どもの成長を見守る大切さや、仕事は仲間と協力することができる気づかされました。それ以来、家族の行事や旅行の際には「行ってこい!」と仲間が背中を押してくれ、帰ってくると「どうだった?」と話を聞いてくれます。

この経験から、家族との時間を大切にしながら働ける職場に感謝しています。

育休をスムーズに 取得できる環境に

パパの名前 浜田 浩史さん 鈴鹿市

第2子の誕生時、私は1ヶ月の育休を取得しましたが、上司からのサポートがほとんどなく、業務の引き継ぎや調整をすべてで行う必要がありました。リーダーとしての責任から育休直前は通常以上に働き、復帰後も仕事と育児の両立に苦労しました。この経験から職場サポートの必要性を痛感しました。第3子の誕生時には上司が女性に代わり、育休の重要性を理解して全面的に支援してくれました。不要な業務の削減や複数人体制の導入により、育休準備が格段にスムーズに。心から安心して育児に専念でき、職場のサポートの重要性を改めて感じました。

今後は自分も後輩や部下の育休取得を支援し、職場全体で両立しやすい環境を整えたいと考えています。

妻からの相談がきっかけとなり 「産後パパ育休」を取得

パパの名前 藪木 崇浩さん 伊勢市

2022年11月、2人目を出産した際に「産後パパ育休」を利用しました。1人目の時は「男性が育休なんて…」という世間の雰囲気や圧倒され、夫の育休を諦めていましたが、今回改めて夫に相談。最初は「会社に前例がない」と消極的でしたが、育休を初めて取得させた企業には助成金が出ることや、福利厚生として記載できるメリットを伝え、上司に相談したところ、無事に4週間の育休が承認されました。上司の「家族が大事!」という言葉が心に響きました。新生児期間中は夫と一緒に沐浴やおむつ交換をし、上の子の保育園のお迎えも交代で行い、産褥期を夫に支えられました。この期間を共に過ごせたことは一生の宝です。

パパが家族と過ごす時間の大切さを多くの人が理解し、社会全体で子どもの成長を見守れる世の中になることを願っています。

子どもが12歳になるまで 残業ゼロ・転勤なし

パパの名前 藤田 康志さん 鈴鹿市 イオンリテール株式会社

子どもの出産育児のためにパパが1年間育休を取得。1年取っていると言うと皆に驚かれて、まだまだ男性の育休取得は浸透していないと感じます。おかげで夫は子育ての多くのことができ、安心して子どもを預けられます。夫は私が不安になった時も共に悩み、調べて支えてくれたため、子育てが辛いと感じることなく、夫婦仲も良くなりました。1歳の誕生日を迎え、夫が職場に復帰しましたが、夫の職場では育児勤務制度が整い、子どもが12歳になるまで残業がゼロで転居を伴う転勤もありません。夫が安定した帰宅時間で子どもとの時間を確保でき、私も安心して生活を送れています。パパが育休を取るには本人の意思だけでなく、会社の協力が不可欠です。なぜママは1年取得が当たり前でパパは難しいのか、生まれた子どもは夫婦の子どもであり、会社の理解とサポートの重要性を痛感しています。

育休復帰時の同僚からの 温かい言葉に感謝

パパの名前 井豫 規人さん 多気郡明和町 生活協同組合コープみえ

当初、育休を取ることは職場に迷惑をかけると考えていましたが、相談したところ「パパ育休」という制度を紹介してもらい、快く受け入れてもらえました。育休取得後、命がけで出産してくれた妻と息子との生活が始まり、毎日が新鮮で幸せでした。とはいえ、不安や疲れもありましたが、職場からの前向きなサポートのおかげで、仕事を忘れて育児に集中できました。

ただ、育休中に異動が決まり、新しい職場に復帰初日から休むことに不安を抱えていました。しかし復帰時には同僚から「よく頑張ったね」と温かく迎えられ、感動しました。育休取得に対する偏見もなく、社会に浸透していることを実感。育休を通じて家族と過ごす時間の大切さに気づき、職場への感謝と恩返ししたい気持ちが生まれました。パパ育休を悩む人には、胸を張っておすすめします!